

奈良県 Living Science: 介護予防ソリューション※1

タブレット端末とクラウドを活用した高齢者の介護予防支援

課題

- ✓ 日本の高齢者数は3,000万人を超え、社会保障費は増加の一途。認知症高齢者数も増加する見込み。
- ✓ 高齢者が、安心して、いきいき、健康に暮らせるよう、地域で支え合う「地域包括ケアシステム」の構築が急務。

内容

- ✓ 奈良県橿原市で、約200名の高齢者に「かしはらいきいきタブレット※2」とモバイルルーターを貸与して実験。
- ✓ 2013年度(2014年1月～3月)、2014年度(2014年9月～2015年3月)の2期にわたり、使用性・受容性を検証。
- ✓ 参加者は、「かしはらいきいきタブレット」を活用して、楽しみながら自己健康管理・介護予防に取り組む。
- ✓ タブレットの利用ログや健康データをクラウドに蓄積、クラウド側からはメッセージ、アンケート、レポートを配信。

成果・効

- ✓ 高齢者にとって使い易いシステムであることを実証：難易度について「ちょうど良い」との回答が7割強。
- ✓ 参加者が本システムの有用性を実感：「自己健康管理に役立つ」「どちらかという役立つ」の合計が8割。
- ✓ 本システムの受容性を確認：「世の中の需要あり」が8割、「継続利用希望」が8割。
- ✓ 橿原市からの防災メッセージの配信や、参加者が集う講習会の場を設けることで、地域で支え合う素地を確立。



ソリューション提供：
シャープ株式会社
ビジネスソリューション開発本部
要素開発センター第一開発室

※1：奈良県が、少子高齢社会で直面する医療・健康などに関する様々な課題に対して、科学技術を活用した課題解決型の産業振興の取り組みとして公募・採択した研究開発・実証事業。本実証は、2013年度・2014年度の奈良県補助金を受けて実施。

※2：「いいききタブレット」は、シャープ株式会社の登録商標。
介護予防に役立つ独自のアプリケーションソフト(各種健康データの記録・閲覧ができる「健康手帳」、認知機能の測定・強化が期待できる「頭の健康ゲーム」、写真撮影や手書きメモ作成が簡単にできる「思い出箱」、体操、服薬管理など)を搭載。

■自分にとって必要か？



■継続利用を希望するか？

